

第12回インテリアプランコンテスト一次選考の結果発表

今年で第12回をむかえますインテリアプランコンテストの一次選考の結果発表です。
※下記にて作品写真と氏名を、発表しております。

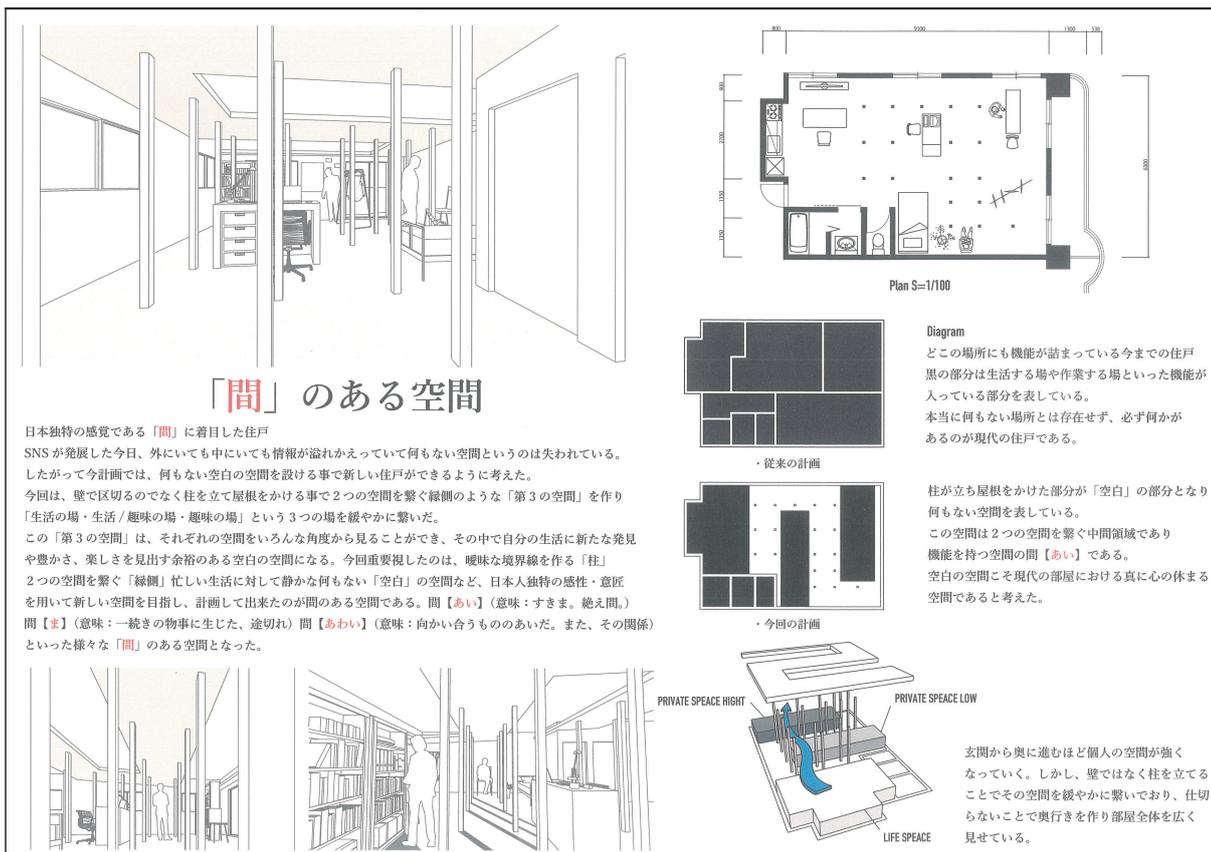
当社が推し進めている、既存のライフスタイルでの住居空間(学生・独身・新婚・ファミリー)ではなく、『もっと自由に楽しめる空間を作りたい』との思いを合言葉とし、より個人の価値観・ライフスタイル(バイク・ペット好き等)を前面に押し出した自由な発想による作品での、沢山の御応募まことに有難うございました。

一次審査(図面審査)では応募総数88作品の中から10作品が選ばれ、二次審査(模型審査)で最優秀賞(1名)・優秀賞(2名)が選ばれます。
一次審査選考通過者の皆様には、後日連絡を取らせていただきますのでお待ち下さい。

一次審査通過者10名

大阪工業技術専門学校 勢旗樹さんの作品

作品名:「間」のある空間



「間」のある空間

日本独特の感覚である「間」に着目した住戸
SNSが発展した今日、外にいても中にも情報が増えていて何も無い空間というのは失われている。したがって今計画では、何も無い空白の空間を設ける事で新しい住戸ができるように考えた。
今回は、壁で区切るのではなく柱を立て屋根をかける事で2つの空間を繋ぐ縁側のような「第3の空間」を作り「生活の場・生活/趣味の場・趣味の場」という3つの場を緩やかに繋いだ。
この「第3の空間」は、それぞれの空間をいろんな角度から見ることで、その中で自分の生活に新たな発見や豊かさ、楽しさを見出す余裕のある空白の空間になる。今回重要視したのは、曖昧な境界線を作る「柱」2つの空間を繋ぐ「縁側」忙しい生活に対して静かな何も無い「空白」の空間など、日本人独特の感性・意匠を用いて新しい空間を目指し、計画して出来たのが間のある空間である。間【あい】(意味:すきま。絶え間。) 間【ま】(意味:一続きの物事に生じた、途切れ) 間【あひ】(意味:向かい合うものあいだ。また、その関係)といった様々な「間」のある空間となった。

Plan S=1/100

Diagram
どこの場所にも機能が詰まっている今までの住戸
黒の部分は生活する場や作業する場といった機能が入っている部分を表している。
本当に何も無い場所とは存在せず、必ず何かがあるのが現代の住戸である。

柱が立ち屋根をかけた部分が「空白」の部分となり何も無い空間を表している。
この空間は2つの空間を繋ぐ中間領域であり機能を持つ空間の「あい」である。
空白の空間こそ現代の部屋における真の心休まる空間であると考えた。

・従来の計画

・今回の計画

PRIVATE SPACE HIGH

PRIVATE SPACE LOW

LIFE SPACE

玄関から奥に進むほど個人の空間が強くなっていく。しかし、壁ではなく柱を立てることでその空間を緩やかに繋いでおり、仕切らないことで奥行きを作り部屋全体を広く見せている。

大阪建設専門学校 近藤百花さんの作品

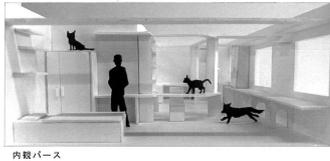
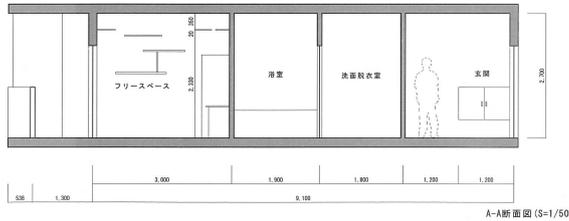
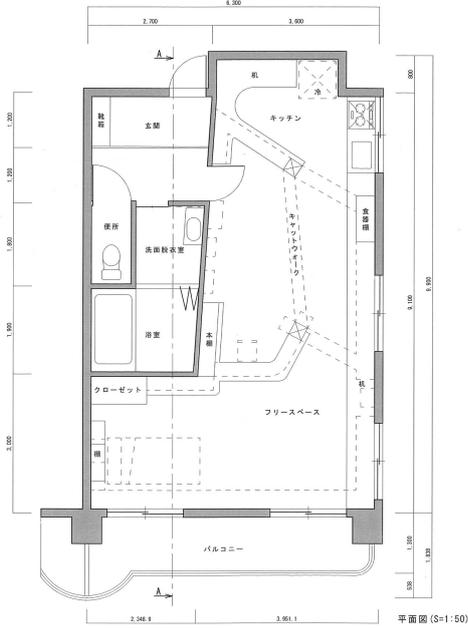
作品名: Athletic house for Pets

Athletic house for Pets

今も昔も、ペットと共に暮らす人は少なくない。住空間とは本来、人間のためにつくられたものだが、ペット達も一緒に暮らす以上、人間だけの都合で暮らすのはいかかなのか、と考えた。そこで、応募コンセプトでもある『もっと自由に楽しめる空間をつくりたい』の通り、人間だけでなくペット達動物も楽しめるような住空間をつくりたい。

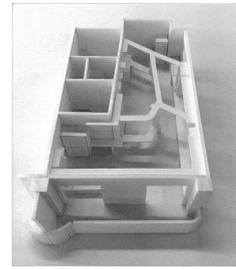
動物たちが行き来しやすいように浴室・便所以外には間仕切り壁をつくらず、備え付けの机や机の脚を利用したトンネルなどをアスレチックのように配置し、動物たちが楽しめ、かつ、人の動線は複雑にならないように配慮した空間。

天井には部屋を1周できるキャットウォークを設置し、床は走り回って遊べるようにできるだけ備え付けの家具を用い、机の脚などを利用したトンネルや障害物を多く作ることによって、動物たちが飽きないようにする。



キッチンからフリースペースには、間仕切り壁や背の高い家具がないため、窓からの光が多く入り部屋全体が明るく、1つの繋がった空間のため、圧迫感がなく人も動物もストレスを感じにくい。

動物がジャンプしたり走ったりして遊んでのを見て人は癒されたり、楽しんだりすることができて双方が楽しめる。



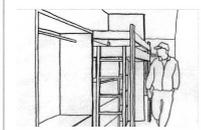
大阪建設専門学校 後藤駿弥さんの作品

作品名: テーブルが作る自由な空間

テーブルがつくる自由な空間

Concept

休日を友人たちと過ごすための住宅。印象的な長いテーブルの各所には明確な役割が与えられておらず、そのときの気分や用途に合わせて座場所を選択することで、食事や読書、雑談を楽しむなど、時には隣りついでひとりの時間をとったり、一つの空間でお互いの存在を感じながら、自由で多様なアクションをとることが出来る家。

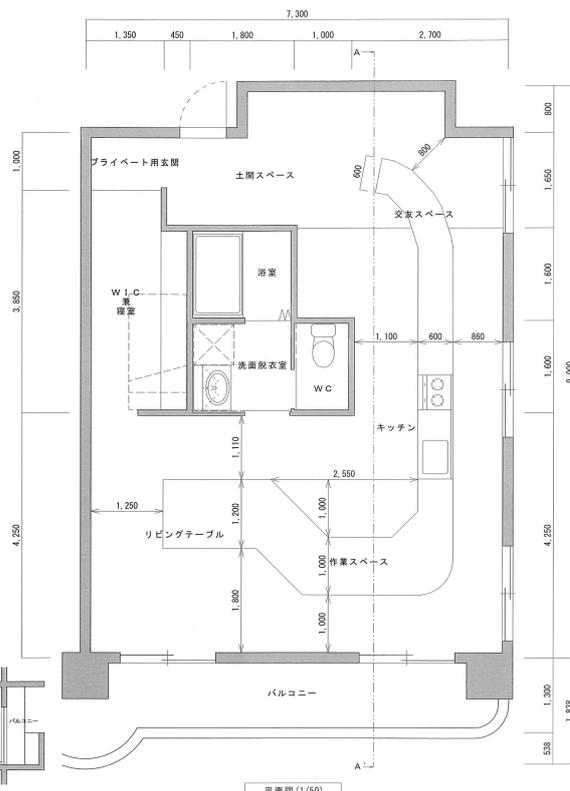
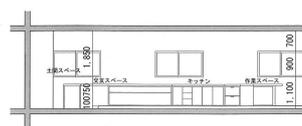


WIC / 寝室

玄関も来客用とは別に設けられ、唯一家主のプライベートな空間として扱われる居住空間。二段ベッドの下にはワリなスペースがとられているので、収納だけでなく生活に必要な家具を取り入れることも可能。

キッチン、作業スペース

部屋の中心部には、大人気で集まったときにみんなで料理ができる広々としたキッチンがあり、収納も充実した作業スペースも併設されているので、そのままバルコニーや土間側にまで広がって、賑やかなホームパーティーを展開することが出来る。



土間スペース

玄関から広がる土間スペースは、土足のまま入ることができ、正座に慣れる交友スペースにまで、茶客が自然に集まれる導線の役割をもつ。



パブリックスペースの収納

コアを囲むように設置されたテーブルの下は手頃な収納スペースになっており、人を招いたときにものが隠れる心配がない。



Pattern

この家では、何をすることも自分次第。「ここはこういうところ」という一つの用途に縛られないよう、このテーブルが柔軟で自由な生活を送れるように導いてくれる。

隣にフリースペースと土間が広がっており、空間に余裕がある。土間からフローリングに接続するも会話も邪魔はしない。

普段一人で居るときは通常のリビングテーブルとして、大人数のときは集まってゲームをしたり、活用の幅が大きい。

唯一用途の決められた部分。部屋のスペースと連続させて楽しく遊べる。

最も用途に個性が出るであろう斜めの部分。お花などを飾って飾りを添えることなども考えられる。

壁側、バルコニー側はカウンター式になっており、テスクワークや一人での食事などに適している。



作品名: ADVANCED GENERATION



ADVANCED GENERATION

人は自由に成長することを望みます。
では家は、自由に変化すること望んでいるのでしょうか？
この家は住む人と共に成長し、変化していきます。

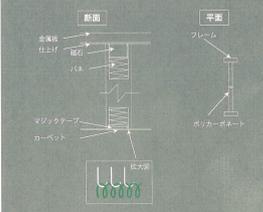
SOHO

仕事場として、自分の好きな時間に部屋を区切ることができます。

コンセプト

間仕切りを無くしハーケーションで区切ることで自由な生活スタイルに合わせたレイアウトを作ることができます。
水廻り以外のすべてが住む人の自由なのです。この家は住人がデザイナーなのです。

可動式壁の仕組み

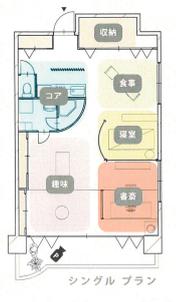


50HO プラン
S=1/100

Single

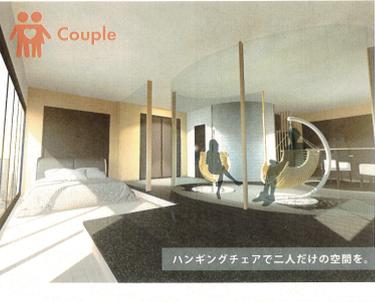


趣味の時間を大切に過ごせるプランです。



シングル プラン

Couple



ハンギングチェアで二人だけの空間を。



カップル プラン

作品名: At Will

At Will



ベランダ

今回のコンペのテーマをわれわれはこうとらえた。
「無から有、有から無」

無から有になるときに生まれる自由
有から無になるときに生まれる自由
部屋を0から自分で作っていく。
そういった部分に視野を当て、
今回このプランを提案する。

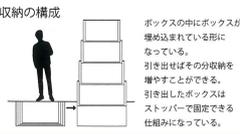
このプランは床に埋め込まれた高さ
2000mmまで伸びる収納で構成されている。
この収納は4段(1段500mm)
で構成されており、最大まで持ち上げると
天井近くまで伸ばすことができる。

またこの収納は家具としても
使うことができる。
机、椅子、ベッドなど自分の思うように
使うことができる。

左の平面図に四角い仕切りが
たくさんあるのが分かると思う。
この仕切り一つ一つに収納ボックスが
埋め込まれているわけだ。

この案の最大の特徴は自分次第で
自由に空間を作り出せることである。
たとえば右のバース①を見てほしい。
全ての収納を床にしまいこんだ。
部屋には立てるものが何も無くなり
大空間が姿を現す。
右のバース③では収納を大きく展開して
3つの空間に分けた。
使い方は住居者の意のままだ。

収納の構成



ボックスの中にボックスが埋め込まれている形になっている。
引き出しは冬の収納を増やすことができる。
引き出したボックスはストッパーで固定できる仕組みになっている。



配置例・製作者の考える一例



①全て収納を床にしまおう
②家具として使う
③収納で間仕切る
④収納として使う

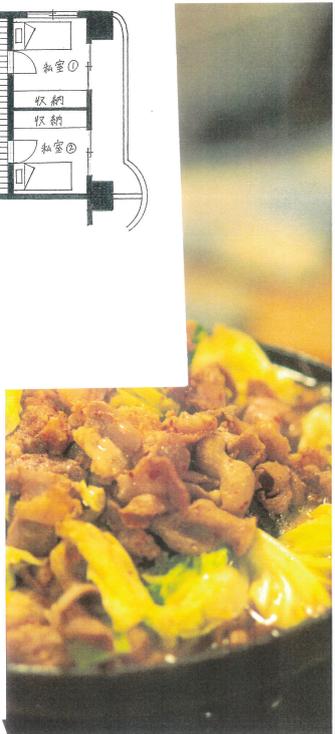
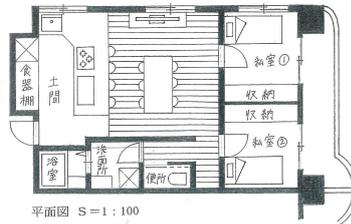
畿央大学 稲井葉澄さんの 作品

作品名: Everyday Party!

Everyday Party!

～料理好きのシェアハウス～

料理が趣味の20代女性二人のシェアハウスである。私室は最低限のものとし、ふたりで使うことのできるキッチン（土間）と友達を招き入れてホームパーティができるような広いダイニングが特徴となる間取りにした。住人の二人が手料理を振る舞い、その向かい側ではカウンターに座る人や、ダイニングを囲む人たちがおり、テレビをみたり音楽を流したりみんなで賑やかに過ごすことのできる空間にした。色彩は茶系でまとめたつつも個性的なカラフルな家具も用いてオシャレでかわいらしさもある空間を目指した。

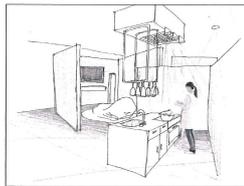


京都美術工芸大学 濱川はるかさんの 作品

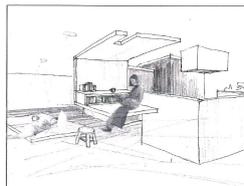
作品名:iCubeー不完全な形ー

iCube Interior Inspire Individual Increase Inform - 不完全な形 -

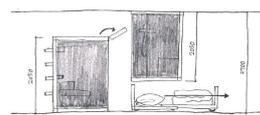
4面または6面で囲われたものを「空間」と定義するならばiCubeは不完全な空間といえるかもしれない。それを完成するのは建築家ではなく、そこに住まう人である。今回の提案は1650x1650と1650x2050の2タイプで構成された不完全なキューブを用いて住まい手が自由に組み合わせ、空間を完成させるものである。それぞれのiCubeは壁から独立し、壁とキューブあるいはキューブ同士の空間は、時には人がようやく通れる狭い路地になる。床に置かれたもの、天井から吊り下げられたもの、あるいは横倒しにされたもの、これらが住まい手の好みによって住空間が形成される。



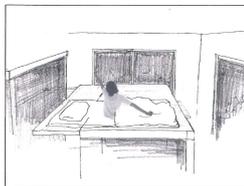
Squeezed Type のキッチンとリラックスコーナー



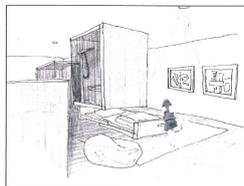
Insert Type の書斎と Flat Type のリビング



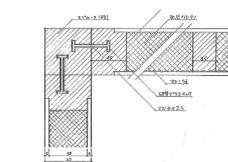
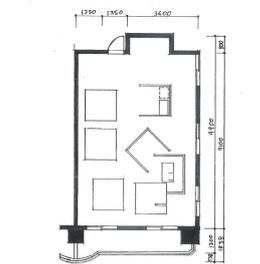
▲天井から吊り下げられたキューブ下部にはスライド式ベッドが組み込まれ、壁面に引き出される。1650のキューブの上部はロフト空間として使用される。



ロフト上部のベッドスペース

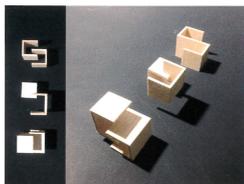
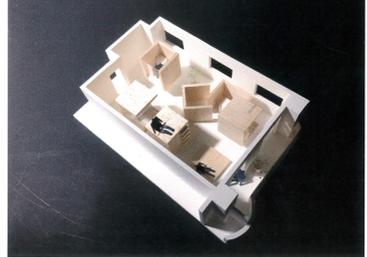


吊り下げられたキューブの下部はスライド式ベッド

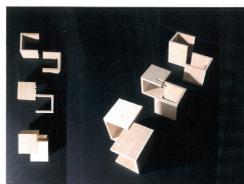


▲ディテール
コーナー部分は硬質プラスチックとアルミの型材で構成されたスライドジョイントとなっている。表面仕上げはペニヤ、内部はウレタン樹脂充填およびアルミ箔張り付け。

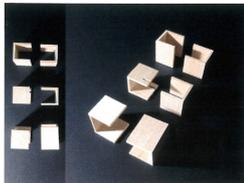
▼iCubeを構成する基本部材
1650 x 1650 の平板、1650 x 1650 の切り込み平板、1650 x 2050 の平板。これらを組み合わせて、iCubeを構成する。



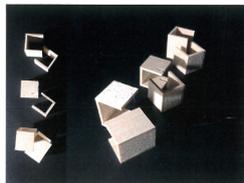
① Insert Type



② Slipped Type



③ Next-to Type



④ Squeezed Type



京都府立大学 島田涼さんの 作品

作品名: のぼって、おりて。

のぼって、おりて。

共働きの親と子供と一緒に居られる時間はあまり多くない。そんな家族に対してどの部屋にいてもお互いが見えるような家を提案する。
従来の賃貸マンションは直方体の箱を入れるように縦方向に分割されていた。このプランでは空間を縦方向、垂直に分割することで家全体を一つの空間として感じられる。

a 土間のダイニングは家族の集まる場所
b ダイニングに面した子どもの勉強机
c はしごを登ると子どもの寝室
d 下は家族のクローゼット
e 一段上がると日当たりの良いリビング
f 広めの階段でちょっと本でも
g 寝室からは家が見渡せる
h 玄関の横には土間の収納

1 LIVING ROOM +200
2 STUDY +700
3 BEDROOM +1500
4 KIDS ROOM +1500
5 KIDS STUDY +500
6 DINING ROOM +0
7 BATHROOM +0

平面図 S=1:100

武庫川女子大学大学院 藤井祐帆さん・中村芽生さんの 作品

作品名: 古キモノを新しく

古キモノを新しく -長屋をマンションに取り入れる-

かつての住宅、室名のない多目的な空間として使用した。今回の提案では、中庭も含め、すべての部屋がひとつながりの空間となり、使い方を限定させない。土間・中庭・床下換気・壁の柱といった、長屋の構成要素を取り入れた平面計画とする。

収納だけでなく家具や空間も一体となった棚
換と壁を共有する長屋のように、両側で共有している。

床下換気
床を40mmあげ、その下を風が通り抜ける。そのため、夏暑は、快適に過ごすことができる。

窓を取り払った半屋外の中庭
風は通るが、直射光は入らないため、暑物に必要な陰平しができる空間。

着付け教室を営み、着物が生活する女性を想定。生活が果たさずには置けず、美しい必要などには必要な道具を出す。休日、中心にある中庭でつらいだり、着物を取ったり、着物を磨きしたりと、一つの部屋のような使い方を。長屋のプランなどといった、かつてのものをいまに合わせ、新しく使い続ける。

平面図 S=1:100

大阪工業技術専門学校 藪根連さんの 作品

作品名: 仕切りの再構築



仕切りの再構築

コンセプト

日常の生活の中で決まり切った仕切りや家具との関係に飽き飽きしないだろうか。仕切りが変化することによって開けが変化し、日々のライフスタイルに変化が生じ、仕切りによって生活、家具との関係、開け、etc. が再構築されていく。ターゲットは2~3人としている。住まい自身が生活する中で自由に仕切り、家具を配置しそれぞれが個性を持った空間を再構築してほしい。



キッチン、リビング、ダイニングを連続的に繋げ個室を分離することで個々の空間と共有の空間を明確に分離したことで外と内の空間を完全に分離され新たな空間が生まれる。



空間を3つ分離したことでそれぞれに個々の空間が生まれ1人の時間をもちたいと思うときに心地の良い空間がそれぞれに生まれていく。



リビング、サニールームに仕切りを置くことで明確に空間が分離され水回りを中心の生活が生まれお洒落ながらながらご飯を食べたりなど新たな生活スタイルが生まれていく。

水回りは出来るだけ小さく収め生活動線を小さくすることを意識し使い勝手が良い計画した。またお風呂には仕切りを設けず開放的な空間に、お洒落ながらながら行うことで様々な使い方が生まれていく。

ダイニングは個室と隣接させ仕切りを使用することによって一体的に使用したり仕切りをつけたり変化させることで縦と横の空間をあいまいなものに変化させていく。

リビングはキッチン、ダイニングと一体的に利用できるように配置とし家具の配置計画によって様々な関係が生まれていく。リビングとは使用せずペットを置くことで個室としての使役もできるように配置とした。



お風呂の前に仕切りを入れることでお風呂を個室の空間にまた個室とリビング、ダイニング、サニールームを明確に分離することでプライベートな部分を隠すことができゲストを招きやすい空間が作られる。



キッチンとダイニングを分離することで個室が生活の中心の場となりサニールームと連続的に繋がることで新たな生活空間が生まれる。

便所は固定されて仕切りを設け変化しないものとして計画した。また玄関にはいつでも仕切りを動かせることによって外と内の関係も完全に断切れることによって新たな空間の表情が生まれる。

個室は寝室、キッチンと隣接させ仕切りによって一体使用、または分離することで空間に変化をもたせた新たな家具との関係が生まれる。

サニールームは賃貸マンションで自分の部屋を持っていないという中で自然を取り込んでほしいという考えから計画を打てた。また、仕切りを動かすことでリビングや個室と連続的につながり新たな空間が生まれる。

以上10作品